

活動報告書

報告者氏名：大関 美鈴 所属 別府支援学校 石垣原校

記録日 2013年2月28日

【対象児童生徒（群）の基本情報】

- 学年
小学3年生A児、小学1年生B児 女児2名
- 障がい（病名）
A児、B児：腎炎による入院治療
- 障がいと困難の内容
A児：病院に長期入院のため社会科の学習で調べ学習をしたり地域の情報を得るなどが厳しい。
入院のストレスや病気の不安等から学習への意欲が高まらない。
B児：保護者と離れた生活のため、寂しさや入院のストレス、病気の不安等から精神的に不安定である。
体調面の不調等から学習に集中できず、意欲が高まらない。

【活動目的】

- 当初のねらい：
入院生活を続けながらの学習で、教室での人数も少なく刺激が少ないことから、学習への意欲、学習効率の向上を図る。また、病院生活のため、社会科学習で調べ学習することが厳しいことから、インターネットを使って住んでいる地域のことを調べる。
- 実施期間：A児：平成24年6月～平成24年10月まで
B児：平成24年10月～平成25年3月まで
- 実施者
大関 美鈴（教諭）
- 実施者と対象児の関係
担当教員

【活動内容と対象児童生徒（群）の変化】

- 対象児童生徒（群）の事前の状況
対象児は2名とも病気による入院治療をしながら、通学している。入院後、体調や精神状況が不安定で、表情が暗く元気がなかった。また、低学年の児童のため、保護者と離れての生活、病院での集団生活などから情緒不安がみられた。また、教室での学習が学年一人である状況から刺激が少なく学習への意欲が高まらない、学習効率が上がらない、集中して取り組めない状況が見られた。
- 活動の具体的内容
A、B児2名とも漢字の学習で、書き順、読み書きの学習に課題が見られたため、「小学1年生（3年生）漢字ドリル」を使った。
A児は、社会科の学習で「マップ」「Google」「yahoo」を使って、地図調べや地域の様子や産業について調べたりした。
B児は、算数では、「計算ドリル」を使って、繰り上がり、繰り下がり、繰り下がりの計算に取り組ませた。どのくらいのスピード、間違いの数、間違った計算式などが具体的に表示されるため、本人の気づきにもつながり、弱点補強になった。



【対象児童の事後の変容】

- ・ iPad を使った学習には2名とも積極的に取り組むことができ



の地図や産業について調べることができた。特に地域のことについては日頃自宅へ帰ることができない児童が楽しみながら学習に取り組むことができた。特に地域のことは、**「地域は調算学習で進めるが、A児は進めるのがターゲット計算で地域」**で間違える数式の特徴に気づかせながら、取り組んだところ、間違いがなくなった。漢字学習は2名ともゲーム感覚で取り組み、集中し、筆順や読みを正確に覚えることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・ 主観的気づき

対象児2名は日頃からゲームやスマホなど機器を使い慣れていることから使用方法には抵抗がなく、扱い方をすぐに理解することができた。iPadの学習は、ゲーム感覚で行うためか、意欲関心が高く、学習にも積極的に臨むことができた。人数が少なく、刺激の少ない本校にあっては学習効率や児童の意欲を高めるためには有効であると感じた。

・ エビデンス

2名が行った漢字学習では、在籍期間の関係からA児は3年生の新出漢字200文字のうち35文字の学習にとどまってしまったが、書き順が複雑になり始めた文字を正確に書くことができるようになった。B児は1年生の漢字学習が始まったばかりだったため、新出漢字80文字すべての漢字学習を行った。書き順、読み方等意欲的に行い、漢字学習に自信を持つことができた。また、計算カードでは、学習を始めたばかりの、繰り上がりの足し算、ミスが9個、繰り下がりの引き算はミスが9個あった。しかし、繰り上がりの足し算では、 $0+9$ の計算にミスが多いこと、繰り下がりの引き算では、 $0-6$ 、 $0-7$ の計算に間違いが多いことに気づかせ何度も繰り返し反復学習することで、間違いずに計算することができた。